・職員が大きな声で話したため、周囲の人から迷惑そうな目で見られて傷ついた。

・補聴器のハウリング音をうるさいと言われてから、周囲の様子が気になり夜も眠れない。

・連絡・指示がわからず周囲の人と違う行動をして白い目で見られた。

２つ目は、聴覚障害者って何なんだろうということが知られていないために、余計な、心理的なストレスがかかるということ。聴覚障害者同士だったら、またはそれに関係している人同士だったら、別に何でもないようなこと、ちょっと大きい声を出して話すとか、補聴器がピーピーピーと鳴っちゃうとか、そういうことはよくあることなんですが、今まで聴覚障害者に接したことがない人にとっては、とても違和感がある。さらに、避難所で、皆で疲れきって避難している、不安だという普通の心理状態ではない時に、さらに今まで体験したことがないことが身近で起こると、とても嫌だと思われてしまう。ということは、知っていればその違和感というのは解消するということです。

＜スライド２９＞

被災者の声

避難所で困っていること

コミュニケーション（言葉）の問題

・周囲の人とコミュニケーションがとれないことによるストレス。

・聞こえる家族からすべて指示されることによるストレス。（何をはなしているか尋ねると「いいから」とか「あとで」ととりあってもらえない。

・社会人として自立できていないような感覚になる。

・手話（自分がわかる言語）で話せないストレス。

・手話で話したい。

被災者の声

避難所で困っていること

コミュニケーション（言葉）の問題

- 周囲の人とコミュニケーションがとれないことによるストレス。
- 聞こえる家族からすべて指示されることによるストレス。（何を話しているか尋ねると「いいから」とか「あとで」ととりあってもらえない）
- 社会人として自立できていないような感覚になる。
- 手話（自分がわかる言語）で話せないストレス。
- 手話で話したい。

３つ目はコミュニケーションの問題です。これはちょっと落ち着いた頃に出てくる問題です。避難してすぐの時には、やっぱり音による情報が入らないという不満の方が大きいんですが、それは何とかクリアすればまあいいんです。書いてもらうとか、または身振りで教えてもらうということができ

るようになれば、それは大丈夫です。けれど、そうやって教えてもらったにしても、避難生活が長くなっていくと、話せないという問題が出てきます。

聴覚障害者がよく言う「情報がない」という困難はこれら２つのの要素をあわせたものだと思います。

＜スライド３０＞

「情報がない」という意味

【発災時】
・警報が聞こえない
・・・防災無線、呼びかける声、通信ツールの弱点
・自力で安全を確保・・・日頃の防災意識がカギ？

【避難所】
・アナウンスがわからない
・周辺の人たちの話がわからない

【仮設住宅】
・周りの様子がわからない
・仮設住宅には日常生活用具がない
・新たなコミュニティの構築・・・地域の情報を得る手段

「情報がない」という意味

【発災時】

・警報が聞こえない・・・防災無線、呼びかける声、通信ツールの弱点

・自力で安全を確保・・・日頃の防災意識がカギ？

【避難所】

・アナウンスがわからない

・周辺の人たちの話がわからない

【仮設住宅】

・周りの様子がわからない

・仮設住宅には日常生活用具がない

・新たなコミュニティの構築・・・地域の情報を得る手段

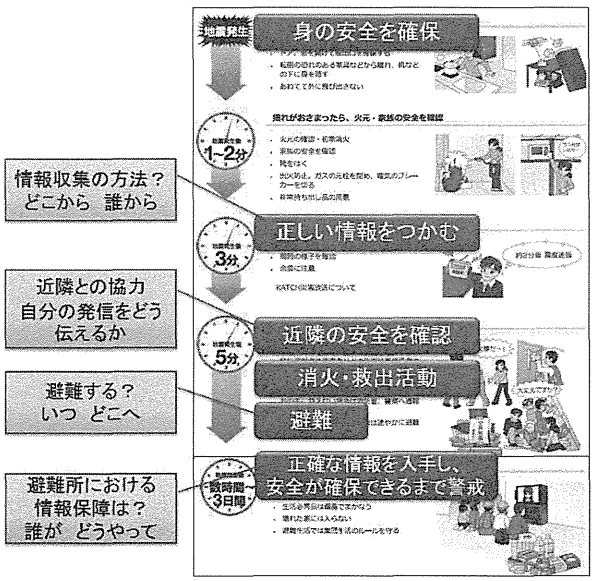
つまり、情報がないというのはどういうことなのかというと、それはやっぱりその時によって内容が異なっていて、時系列で考えると、第一は何か起こった時に警報が聞こえないということ。これは生命の安全に関わる問題なので、何とか整備しないといけませんよね。だけど一方で、自力で安全を確保しなければいけないというのもあるんです。だから、町全体で整備しておかなくてはいけないことと、自分が何か対策を講じておいて、安全を確保することができる予備知識を身につけることと、きちんと分けて整備しておかないといけないだろうと思います。

次に、避難所に避難した時にアナウンスが分からないということ。それから、周りの人たちが何を話しているのかが分からないということ。そうすると、アナウンスが分からないことについては、紙に書いて出してもらえばいい。でも、周りの人たちが話していることというのは、なかなか入ってきにくい。コミュニケーションが成立しにくいことをどうクリアするかというと、市民皆が、地域には

いろいろな人がいて、いろいろなコミュニケーション手段があるということを皆が知っておくということが必要です。

仮設住宅の問題

仮設住宅の問題というのは、当面皆さんには遠い話、身近ではない話だと思いますが、今、宮城で、みみサポみやぎがつながり作りに力を入れているのはなぜかというと、仮設住宅というのは新たなコミュニティです。それまで同じ町内に住んでいた、長年付き合いのある人たちが、そっくりそのまま、同じ仮設団地に入るわけではありません。仮設住宅は抽選順に入っていくので、もとのコミュニティはバラけてしまったんです。で、新しい仮説団地のコミュニティができたものの、聴覚障害者のことを知らないという人も周りにたくさんいて、これまで何十年とかけて培ってきた近所付き合いというものを、今また新たに作っていかなくてはいけないことになります。そのため、みみサポみやぎは、そこでつながり作りというのを強化して、地域の中に聴覚障害者がいるということを知らせる活動を行っています。



＜スライド３１：地震発生後に誰もがすべきことと、聴覚障害者の課題＞

＜地震発生＞

最初の大きな揺れは約１分間：身の安全を確保

・火の始末はすばやく

・ドア、窓を開けて脱出口を確保する

・転倒の恐れのある家具などから離れ、机などの下に身を隠す

・あわてて外に飛び出さない

＜地震発生後１～２分＞

揺れが収まったら、火元・家族の安全を確認

・火元の確認・初期消火

・家族の安全を確認

・靴をはく

・出火防止。ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを切る・非常用持ち出し品の用意

＜地震発生後３分＞

ラジオ・テレビなどで正しい情報をつかむ：正しい情報をつかむ（聴覚障害者：情報収集の方法？　どこから　誰から）－（支援者：聴覚障害所のことが心配。でも、自分にも家庭がある）

・ラジオなどで情報を確認

・周囲の様子を確認

・余震に注意

KATCH 災害放送について

＜地震発生後５分＞

災害の状況に応じて冷静に対応：近隣の安全を確認（聴覚障害者：近隣との協力、自分の発信をどう伝えるか）：消火・救援活動：避難（聴覚障害者：避難する？　いつ　どこへ）－（支援者：動ける！どこにいけばいい。どう動けばいい）

・隣近所の安全を確認。隣近所に声をかけ、互いの安否を確認する。特に高齢者や障害者などの災害要援護者のみの世帯には積極的に声をかける

・消火・救出活動。隣近所で協力して消火や救出を行う。自分たちの手に負えない場合は消防署、警察へ通報する

・周囲に危険が迫っている場合は速やかに避難する

＜地震発生後数時間～3 日間＞

正確な情報を入手し安全が確保できるまで警戒：（聴覚障害者：避難所における情報保障は？　誰が　どうやって）

・自宅や地域の安全が確認できるまで警戒をする

・生活必需品は備蓄でまかなう

・壊れた家には入らない

・避難生活では集団生活のルールを守る

もう少し短い時系列で考えてみましょう。

これは、例えば地震ですけど、地震が発生してからどういうふうに行動していくか、ということを時系列で書いています。まず、正しい情報をつかんで、逃げるか逃げないかというのを考えなくてはいけません。情報収集の方法は、誰から、どこから得れば大丈夫か、というのを確認しておいたらいいと思います。そして「自分の家は大丈夫だった。じゃあお隣はどうかな。」というふうに、１回外に出て、助けに行かなくてはいけないのかどうか、というのを見合います。そうした時に、じゃあお隣の人たちとどうやって話をしていくかな、身振りか筆談か。じゃあ、外に出る時に、何か紙と鉛筆は必ずどこかに持っていないといけない。すぐ持って出られるようにしておくために、うちではどこ

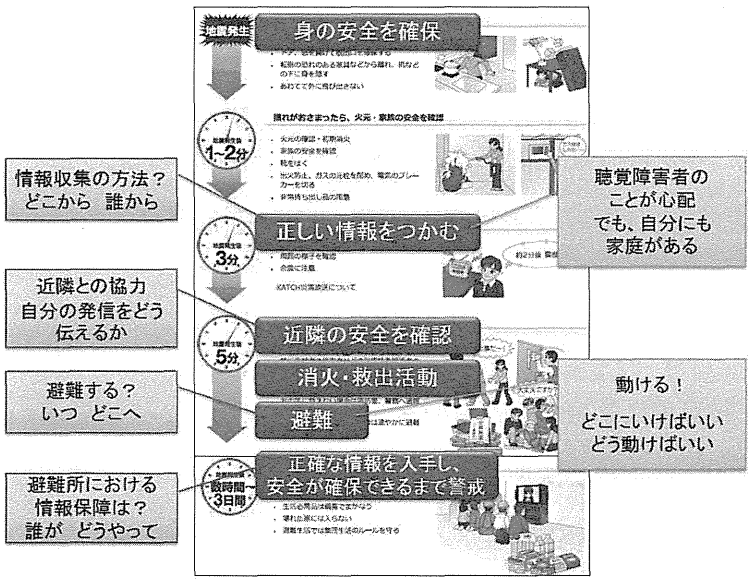
に備えておくかな、ということを考えておく。玄関に必ず一切のものを置いておくとか。

次に、避難をすることになりました。皆さん、ご自分の家から避難所までの経路、後の質問にもありますが、自分が避難すべき指定避難所がどこか分かりますか？大丈夫ですか？その時に、日中だったらどうしましょうか？家族がそれぞれ会社に行ってる、学校に行ってる、バラバラのところで避難して、「後でどこに集合しようか」という話し合いはしていますか？どうやって連絡を取り合おうか？携帯電話があるから大丈夫？だめです。

というように、このそれぞれの時々で、必要な情報収集の方法というのは異なると思うので、自分でできること、それから、町で備えておかなくてはいけないことというのを整理したらいいですね。

支援者が準備すること

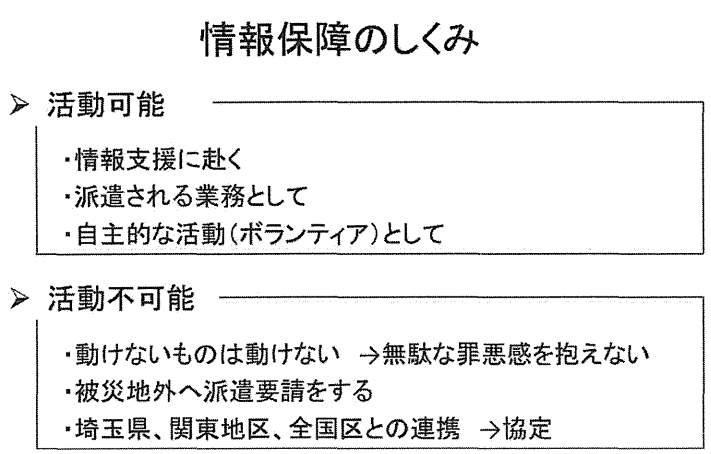
＜スライド３２：地震発生後に誰もがすべきことと支援者の課題＞



前のスライドに合わせて表記。ここでは、支援者の課題を追加。

今度は支援者の側です。例えば「地震が起きました」または「台風、大雨が来そうです」、「避難勧告が出ました」、「避難指示になりました」といったことを「聴覚障害者に伝えないとだめかしら」と思う。だけど、「自分の家のことも私大変だし、子どもを迎えに行かなくてはいけないし」となった時にどうするか。葛藤が起きると思うんですが、まずは自分のことをしましょう。聴覚障害者側も「分からない、通訳者来てもらいたい」とか「要約筆記者来てもらいたい」と思うでしょう。いたらいいに越したことはないんですが、あなたが自分の身の安全を確保する情報が欲しいと思っているのと同じように、支援者側も自分の身の安全を確保しないといけない。だから、まず災害発生時は、それぞれが皆、自分のことを守るべき。落ち着いて、支援者側が「あ、私は大丈夫、支援に行けるわ」となった時に、じゃあどこに行くのか。「適当なところに行っておけ」みたいなのだったら、無駄になる

かもしれないから、どこに行ったら一番効率よく動けるのかというのを、やっぱり決めておかなければいけません。



＜スライド３３＞

情報保障のしくみ

★活動可能

・情報支援に赴く

・派遣される業務として

・自主的な活動（ボランティア）として

★活動不可能

・動けないものは動けない→無駄な罪悪感を抱えない

・被災地外へ派遣要請をする

・埼玉県、関東地区、全国区との連携→協定

情報保障をする人たちは、活動可能だったら情報保障に、支援活動に行ったらいいと思うんですが、その時に、例えば所沢市の社協から業務として派遣されて行く形になるのか、または自主的な活動、ボランティアとして動くのか、これはきちんと分かっていたらいいですね。

もし活動ができない、地域の通訳者や要約筆記者が「もう無理だ」となった時には、すぐに外部から応援を呼ばないといけない。今回、被災地に厚生労働省のルートを使って、全国から通訳者が入りました。いきなり全国からではなくても、所沢市が無理だったら、まず埼玉県からとか、埼玉県が無理だったら関東地区からというふうに、段階的に協定を結んでおいたらいいだろうと思います。

それともう１つ。動けないものは動けないんだから、まず自分のことをきちんとしたらいい。「仕方ない、ごめんね」って。無駄に罪悪感を抱える必要はない。というようなことは、１人では決められないことなので、皆さんで相談をしてシステム化しておくべきだと思います。

＜スライド３４：広報ちころざわ　平成25年８月号　２－３頁＞

「広報ところざわ」平成25年8月

これは、『広報ところざわ』の８月号に載っていましたが、ご覧になりましたか？皆さんのお宅にも届いていますよね。広報ところざわ。もう配達になりましたよ。ここに自助、共助、公助という３つの支援活動があります。この自助、共助、公助ですね。どういうものなのか、きちんと把握して整理しておかなければいけません。

＜スライド３５：広報ところざわの記事の拡大と文字の追加＞

自助（自分の安全は自分で守る）

・防災メールに登録・災害伝言版の利用・近隣住民との交流・要援護者登録　etc

共助（地域を地域の皆さんで守る）

・近隣住民との交流・聴覚障害者団体との接触・総合防災訓練・地域住民に聴覚障害者の存在、特性を知らせる　etc

公助（市民の安全を守る）

・防災無線の可視化・指定避難所の設備（文字情報）・支援者（手話通訳、要約筆記、盲ろう者通訳介助）の手配　etc

例えば自助だったら、皆さん防災メールに登録します。それから、災害伝言板というのを使えるようにしておきます。お隣の人と話ができるようにしておきます。または、自分で逃げることができないと思うんだったら、要援護者登録というのをしておかないといけません。

共助は１つは町内会。それから聴覚障害者団体。それと今度８月 31 日にありますが、実際に防災、

避難訓練に参加して体験しておくということ。もう１つ大切だなと思ったのは、地域の住民に聴覚障害者の存在を知ってもらうというのはすごく大切だと思います。後で摩擦を少なくするためです。だから、今度の８月 31 日にはぜひ参加して、「私たちも同じ住民です」ということをアピールしておかないといけないと思うんです。

それから公助の部分では、行政に備えてもらいたいものというのがあります。

＜スライド３６：市町村発信の防災メール　ところざわほっとメール＞

http://tokorozawa-hotmail.jp/renraku/user/hotmail/blog/showDetail.do

皆さん、ところざわほっとメールというのがありますが、これに登録している人はいますか？これ、バンバン入ってきますよ、毎日、いろんな情報が送信されます。いろいろなカテゴリーがあって、市からのお知らせとか防災とか、何とかかんとかいっぱいあるので、保育園からの手紙は要らないかもしれないですね。だけど、自分が必要なものだけを選んで、入るようにしておけばいいのです。

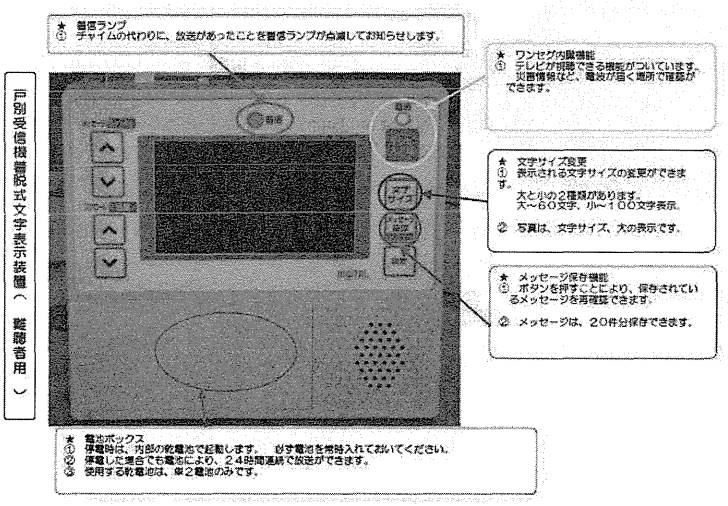
＜スライド３７：島根県出雲市　デジタル式行政無線の写真＞

http://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1320112332960/files/6.pdf

2／3 頁

防災無線「文字付戸別受信機」

（島根県出雲市　デジタル式行政無線）



それから、情報が入ってくる防災無線とか、広報車というのがいくつかありますけど、それではだめですよね。目で見えるものでないといけない。防災無線を文字で出してくれる機械があります。島根県の出雲市では、このデジタル式の文字による防災無線機を、お年寄りのおうちとか聴覚障害者のおうち全戸に設置しました。行政が。

＜スライド３８：町独自の緊急速報（宮城県美里町）河北新報記事の写真＞

町独自の緊急速報
（宮城県美里町）

みやぎ　街ひと話題

コルネット http://www.kahoku.co.jp
仙台・宮城の広告情報 http://kahoku.shubo.net/
広告掲載申し込み受付 0120-09-3726 9:00～15:00
地域SNS「ふらっと」http://fat.kahoku.co.jp
かほピョンくらぶ 会員募集中 http://pyon.jp/

スマートフォンに表示された「防災ナビみやぎ」のトップページ

独自の緊急速報　スマホへ携帯へ

美里町　防災ナビ　きょう運用開始

いのちと地域を守る

町は、スマートフォンや携帯電話に緊急情報メールを送信する「防災情報提供システム」（防災ナビみやぎ）の運用を1日開始する。緊急メールのほか、防災行政無線で流れた放送内容を聞き直せるなど、町で独自の緊急・災害時の情報提供サービスとして期待している。

緊急情報メールは、音声情報をリアルタイムで、表示情報を数秒遅れで入手できる。緊急情報と通常情報、防災行政無線で流れた放送内容を聞き直せる。町で独自の緊急・災害時の情報提供システム（マルチ・ハザードシステム）の情報を提供しまして、緊急情報を発信する。それぞれ別の「防災ナビみやぎ」の新システムでは、対象エリアである町の住民・緊急情報は「防災ナビ」で、町独自の情報は「防災ナビ」で、町独自の情報は「防災ナビ」で、町独自の

宮城県の美里町では、独自に緊急速報を出すシステムを作って、スマホや携帯に送るというのを始めています。

「広報ところざわ」平成25年8月

＜スライド３９：広報ところざわの上にメッセージを表示＞

今すぐ動き始めることが大切

自分がすること

住民がすること

行政がすること

所沢市では、「防災無線が聞こえなかったら、ここに電話をして聞いてください」というのをやっています。「防災無線は外で鳴ったりするので、または広報車は外でアナウンスして回るので、それが聞こえない。そういった時には、この番号に電話をして内容を確認してください」というサービスを行っています。だから、ご自身が補聴器をつけて、電話で確認できるんだったらそれでもいいかもしれません。でもそれさえ、その放送の存在さえ分からないという人は、それに代わる手段というのを整備してもらわないとだめです。

これらの行政の動きというのは、障害者とかいろいろな団体からの要望を市に上げて、議会で承認されてできた。ですから、何かしらの団体に所属するということは、声をまとめて、そうやって市に届けていくという、そういう手立てを持っているということです。

以上、東日本大震災以降、宮城で行ってきた聴覚障害者向けの支援活動、そこから、今いろいろとやらなければならないと思っていることをお話しさせていただきました。まずとにかくやらないとだめなんです。宮城でも、「対策本部を作らないとだめだね」、「災害マニュアルを作らないとだめだね」と言っているうちに震災が起きました。

この前、埼玉県では、地震の被害の予想マップというのが更新されましたよね。埼玉県の南部の方がとても被害が大きい。東京湾が震源になった地震においては、埼玉県南部の方が被害が大きいんだということが発表になりました。まさにここじゃないですか。ですから、震度６強の地震が発生した時に、どのような状態になるのかということをよく考えて、皆さん、今すぐに対策を始めていただきたいと思います。

以上

後日談：平成 26 年秋から、みみさぽ宮城は宮城県聴覚障害者情報センターに発展することになりました。

北村：通訳の方に、進行の相談の時に「アンケートを一問ずつ通訳して記入すると、聴覚障害者では時間がかかります」と言われました。「書いてしまうと下を見てしまうので、上を見てもらうのに時間がかかります」と言われたのを今実感しました。進行方法を変えようと思います。私にとって、今の時間は一番いい勉強になった時間です。

まず、アンケートの質問にもありましたが、「所沢の社会福祉協議会は何を準備しているの？」ということを、皆さんも気になると思うので、今日は社協の方にお願いして、災害について社協で今考えていることというのをちょっと一言、お話しいただきたいと思います。よろしくお願いします。

バンダナ

X：皆さんこんにちは。所沢市社会福祉協議会、相談支援課主任のXと申します。昨年度、所沢市聴覚障害者協会が市に要望を出した「聴覚障害者災害時援助用バンダナ」を昨年度末に作成しました。こちらなんですが、多分、お持ちになってらっしゃる方もたくさんいらっしゃるかと思います。聴覚障害者の支援というところでは、こちらが大きな取り組みの１つとなっています。

各関係機関から委員を選出して、バンダナ作成委員会というのを立ち上げまして、そこで市の方も交えて、どういったデザイン、どういったものを何部作るか、というところを細かく検討して、その結果、今年の２月にこちらが完成して、各団体に必要部数をお渡ししました。

福祉情報提供訓練

再三お話に出ておりますが、８月 31 日に防災訓練があります。社会福祉協議会としましても災害ボランティアセンターの訓練がございまして、そちらでこのバンダナを、聞こえない方と支援者に活用していただいて、これを着けている方がいた時の地域の方の対応、どういった対応をするか、そういった状況を確認する「福祉情報提供訓練」というのを計画しております。

複数の場所で防災訓練が行われるので、どういった方が参加するかは当日にならないと分かりませんが、バンダナを持っている方は、ぜひたくさん各地の避難訓練の場にお集まりいただきたいと思います。こちらを作った以上は、PR の意味も込めまして、このバンダナをたくさん着けている方がいらっしゃれば、市の方も今後も増量というところを考えてくれると思います。社協としてもそういったところで、今後もこのバンダナを作成を、去年で終わりではなくて、継続して作成の方を考えておりますので、何とぞご協力をお願いしたいと思います。

コミュニケーションボード

８月 31 日の避難訓練では、横浜市等が活用しているんですが、「コミュニケーションボード」という、聞こえない方や外国籍の方、あと失語症の方など、そういった方にイラストで何を伝えたいか、どういうことを望んでいるかというイラストが描かれたボードがあるんですが、そのコミュニケーションボードに

ついても、展示を予定しておりますので、参加される方はそちらも見ていただければと思います。

コミュニケーション支援事業

また、市の委託でコミュニケーション支援事業というものがありまして、そちらで毎年、手話講習会ですとか、あとは要約筆記者養成講習会があります。その講座の中で、聴覚障害者の理解を市民の方に深めてもらうテーマも講座としてあります。毎年、たくさんの市民の方が受講しているので、そういった方々が避難所で、もし聞こえない方がいらっしゃれば、講義の中で習った内容を地域で生かしていただきたいと社協としては考えております。

ほっとメール・災害時メール 119 番

先ほど宮澤先生の講演の中でありましたが。行政がしているほっとメールや災害時メール 119 番等の行政の支援もありますので、活用していただいて、自助、共助、公助が連携をして、災害、いざという時に皆さんが過ごしやすい、安心して避難できるような取り組みを、皆さんと一緒にこれからも考えていきたいと思います。この後、いろいろな意見が出されるかと思いますが、何とぞよろしくお願いしたいと思います。私の方からは以上です。

北村：Xさん、ありがとうございました。今、Xさんから紹介のあった、横浜市のコミュニケーションボードをご存じの方、いらしたら手を挙げていただけますか。ほとんどいませんね。とてもいいものです。「筆談してください」とか、「今、何を言っていますか」とか、そういう言葉が絵で出ています。もともとは災害時ではなくて、お店で物を買う時や銀行で聞く時用に作ってあるので、いろいろなバージョンがあります。全てインターネットでダウンロードできます。「常日頃ご自分で定期入れ版をコピーして、入れておいて使ってください」というふうになっているので、ちょっと検索してみてください。

残り 20 分ですので、1課題5分ぐらいでちょっと皆さんと意見交換をしたいなと思います。この太く書いた項目です。

一番初めに、小学校のような一次避難所に行った時に、受付で「私はアナウンスを書いてほしいんです」と、まず言えるかどうかがとても大事なところだと思います。「ちょっと言えない」という人、手を挙げていただけますか。皆さん言えます？ああ、言える人ばかり今日は来ていますね（笑）！

女性A：その時、通訳は一緒にいる？

北村：いません。1人です。避難所に1人で行きます。「アナウンスを書いて」と伝えるにも筆談しなきゃいけないんですよね。自分で紙と鉛筆を持って行く必要がありますね。

女性A：すぐにバンダナやります。

北村：あ、すぐにバンダナやる。なるほど。だけどその時に、受付の人もいきなり言われても、どうしていいか分からない。「筆談してください」と言われても、紙や鉛筆の用意がたくさん無い。あるいはマジ

ックと画用紙の用意が無い。ということも考えられますよね。だから自分で画用紙とマジックを持って行って「これ」って出せばいいかもしれません。

でも、誰が書くのか。聞こえる人が、１日中１人では多分難しいから、順番でやってもらわなきゃいけない。すると、避難所の運営組織でそういう当番を準備しておかないと、いきなり頼まれても町内会さん困りますよね。Ｂさん。

B（町内会役員）：はい。

北村：いきなり頼まれても多分困るので、あらかじめ皆さん、防災訓練に行ったら、「こんなのをやってほしいんですけど」って、初めは要約筆記の方を頼んで、自前で「こんなのです」って、デモンストレーションして見せて、「どこまで地域の方にやってもらえますか？」という相談をしなきゃいけないかな、と思うんですが、いかがでしょう。そういうのを避難訓練に行ってできそうだと思う方、手を挙げていただけます？

C：できそうというのは？

北村：避難訓練に要約筆記者を連れて行って、画用紙でデモンストレーションをしてみて、町内会の人に、「こういうのを次の避難訓練からは、町内会で用意してもらえますか？」ってお願いすることです。

D：やっぱりあった方がいいと思うので。

北村：あった方がいいんだけど、自分で頼めますか？あらかじめ。

E：やっぱりそこは、本当に災害が来た時にはそれをやらなければいけないので、それとやっぱり子どもがいれば、子どにお願いすることもできるかもしれませんが、でも、自分も舞い上がっちゃうかもしれません。

北村：ね。じゃあＥさん、前に来てもらえます？前に来て手話で。手話で発言する人は前に来て発言してもらえますか？

E：ろう者は、さまざまな地域に暮らしているので、やはり自分の家の近くの避難所に避難をすると思います。けれども、１人で個人的なお願いをするというのは、なかなか了承してもらえないかもしれないので、なかなか理解をしてもらえないということが起こるかもしれません。きちんとした情報が得られずに、皆さんと同じような生活ができなくなるという不安があります。

北村：この発言の前半は、「避難する避難所が一次避難所がいいか、近くの一次避難所がいいのか、そうじゃないところがいいのか」という話にも関わると思うんですけど。「一次避難所に行きたい」じゃなくて、「聴覚障害者ばかりが集まる避難所の方がいい」という方、ちょっと手を挙げていただけますか。

今日聴覚障害者の参加は 10 人ぐらいなので、半分ぐらいの方はまとまりたい。じゃあそこで多分、考えなきゃいけないんだと思うんですが、どこにまとまるか。

E：質問です。すみません。

北村：前にお越し下さい。

E：例えば、地震が発生した時間がいつになるか分かりませんよね。昼間なのか夜間なのかということが分からないと思います。またどこにいるのかも分からないので、どこで、どこの避難所を利用するかというのはまだ決まっていませんよね。例えば避難所にしても、自宅に帰れなかったりして、勤め先で地震が発生すれば、もしも交通手段が確保できないと、自宅に戻って来れないということもありますし、それから、勤め先がもしかしたら市外という可能性もあります。

北村：そうですね。

E：ということも考えると、聴覚障害者が逃げる場所が決まっていても、かえってものすごく遠いところから戻って来なければならないということになるかもしれませんし、あるいは勤め先など、外出先での避難所での対応というのも、どういうふうに得られるか分からないと思います。

北村：今、とても重要なご指摘をいただいたんですが、自宅から最寄りの一次避難所を知らない人が調査では結構いました。どこに逃げるかが実は分からなくて、最寄りの小学校かもしれないけれど、災害がひどくなければ全部の避難所は開きませんので、一番近い避難所が開かないこともあります。職場にいたら違う場所に逃げる、旅行中だったら全く知らない場所に逃げることになります。つまり避難所側の準備としては、誰が来てもいいようにしておかないといけないんじゃないでしょうか。

Eさんがいるから、Eさんの地域は聴覚障害者の準備をすればいいだけじゃなくて、Eさんが旅行中の受け入れ先も対応してもらわなきゃいけない。だから皆が、全ての一次避難所が準備をしておくというのは無駄ではないと思うんです。だけど、その一次避難所に具体的に説明しに行くのは、多分地元の聴覚障害の人でないと相談が進まないんじゃないかと思います。聴覚障害の人が誰もいない避難所というのも多分あると思うんですが、そこは他の例を勉強してもらって、余裕ができた時に準備してもらう。

だから、みなさんが多分、一番簡単にできるのは、まず自分の家の一番近くの避難所と相談する。その例を、全国に発信するのは私の仕事になります。「ここではこうやって、うまくやったよ」と。

それから、後ろの方は聴導犬を使ってらっしゃるので、犬のことも考えなきゃいけない。なかなか聴導犬って珍しくて、私も実際に使ってらっしゃる方、今日初めてお目にかかったんですが、せっかくなので聴導犬を使うに当たって心配なことがあったら、話していただけますか。前に来ていただいて。犬は置いておいて置かれますか？

F：聴導犬は、どこでも連れて行くことは、大体認められているんです。避難場所に入ることも認めていただいていると思いますので、特にそのへんは心配は無いんですが、もし、避難所から断られた場合でも、私からはきちんと説明できると思います。もう既に認めてもらえています。大丈夫です。

北村：私は、盲導犬の話を聞いたことがあって、東日本大震災の時に、都内で外出中で、盲導犬の利用者が犬のトイレで困ったということでした。トイレの包むものの用意を日帰り分しか持ってなくて、都内に１泊しなきゃいけなかったので、排泄物の処理が困ったと。それから食べ物、配給の物を、犬にも同じものでいいのか、配給がもしも足りなかった時に、皆が犬にあげることをどう思うか、ちょっと気になったと言ってました。犬は我慢ができますか。災害時におなかがすいてたら、どうなるんでしょう。予想がつきます？

F：私の聴導犬は、声を出さないような訓練はしてあるんです。

北村：じゃあおなかがすいたからといって、吠えることは無い？

F：そうですね。私が伺った話なんですが、盲導犬についてなんですが、この間の地震の時に、実際に避難所では、盲導犬に対する配慮みたいなものはあったようです。例えばトイレの場所を確保してくださったり、犬のペットフードをもらえたり、皆さんが犬がいても、快適に生活できるように、パーテーションみたいなものを組んでもらえたり、そういうのをしたという話を伺ったことがあります。だからまあ、大丈夫なんじゃないかなと私としては思います。

北村：準備しなくても大丈夫？

F：前もって、やはり地域の人にお願いしておけば大丈夫じゃないかなと私は思います。

北村：何か実際にやってらっしゃいますか、地域で。

F：ちょっとまだなんですが、今日帰ったら、いろいろお話ししていきたいなと思います。

北村：相談した結果をぜひ教えてください。それからEさんのご発言の後半について残り５分なんですけど、アナウンスとかというのは割合分かりやすくて、皆が注目しやすいんですが、そうじゃなくて、皆の会話が分からないときに隣の人に、「何を言っているの？」って、「筆談して」っていうようなことを言えます？大丈夫ですか？皆さん大丈夫？

北村：Gさん、手話で言います？発話でいいかな？

G：声を出します。さっきね、「筆談できますか？」って言った時に、「昼間だったらできるけど、夜はできないです」って言った人がいました。ああなるほどって思いました。夜は分からない。夜はどうしたらいいのかって。「夜、書くことはできない」って。停電してて、夜とかは、分からなくなっちゃう。

北村：懐中電灯を持ってなくちゃいけないのかな。で、両手を使えないから、勧められてるのはヘッドランプ。歩くに時にも勧められてますけど。

G：私このNTT手帳を今も持ってるけど、「筆談できますか」って書いてあるので、出すと相手が嫌がる。

北村：「筆談を頼んでも断られる」筆談頼んで断られにくい人います？逆に、「いつも私、筆談を頼んで、快く書いてもらっています」っていう人がいらしたら、どうやったらうまく書いてもらえるか、ちょっと

紹介いただきたいなと思うんですけど。

H：私は去年の 12 月に、新幹線に乗っている時に地震が起きたんです。新幹線も止まりましたし、本当に皆さんもパニック状態だったんですけど、バンダナがあればバンダナを着けてやればよかったんですけど、思い切って近くの人に筆談をお願いしてみたんです。その当時は、電光掲示板を消えてしまっていたので、本当に情報が無かったんです。それで、勇気を振り絞って、隣の人にお願いしてみたら、地震の関係でトイレが使えないことや、電車が止まっているということを、筆談で情報をもらえました。その出発時刻、大体の時刻なども、そちらで教えてもらいました。それですごく落ち着くことができました。

でも本当に地震でパニック状態だったので、また電光掲示板も消えているという状態だったので、大変な思いをしまいした。逃げる人とかであふれてしまったりして、本当に大変な思いをしました。勇気を振り絞って、筆談をお願いしたことは本当によかったと思います。とにかく勇気を出すことが大事なんじゃないかなと思うんです。

北村：G さんは勇気を出して言うんだけど、皆逃げてしまうということなんですが、それは G さんが女性じゃないから、親切にしてもらえないということなんですかね（笑）。

H：私は筆談をもらった後は、心を込めて「ありがとう。」と言いました。筆談をしてくれた、手助けをしてくれた女性の方は、筆談をした内容を全部、会社に持って帰ってくれて、会社の方でいろいろアピールをしてくれる、というお話をしてくださいました。

北村：頼みやすい人の探し方ってあります？女性がいいとか、暇そうな人がいいとか。

H：そうですね。私の場合は確かに人、顔の雰囲気とか、会社でいうと重役っぽくない人にお願いをしたというのがあります。ちょっと優しそうに見えました。やはりちょっと、顔を見てなんですが、本当に優しそうな顔の人にお願いしたら、そう手厚く手助けをしてくれたので、本当にありがたかったです。

北村：G さんと一緒に、今度、筆談を頼むワークショップやりましょうか。外に行って、どんな人だったら受けてくれるかっていろいろ試してみるのはどうですか。前に、車いすの人が駅で階段を上げてくれるのに、「カップルの男性に頼むと、女の子の前でいい格好したくて断りにくい」という研究結果を見たことがあるんですが。硯川さん、何か経験あります？こういう人はいろいろやってくれるとか。

硯川：それはあります。ありますね。

G：私もね、いつも外出が多いから、バンダナをいつも持ってるんです。電車が止まる時もあるし、帰る時もどこで止まるか分からないから持ってるんです。たまたま池袋で電車に乗って、なかなか出ないのね。電光掲示板にも出てないの。「おかしいな、何かあったな」と思って、私バンダナをつけて座ってたの。それで、なかなか来ないから、隣の人に「筆談をお願いします」って言ったら、手伝ってくれなかった。だから「困ったな」と思って、自分で紙もペンも渡したんですが、周りの人皆取ってくれなかった。そう

いう経験があるから、分からないんです。

北村：今日、参加している電動車いすのスタッフは、硯川さんという、国リハの研究員なんですが、きっと彼も町でいろいろな人に声をかけて、断られ続けた経験があると思うので聞いてみたいと思います。

硯川：町中だとそれほど人の助力を必要としないから、あまり分からないですが、私のワークショップに参加してくださってる車いすユーザーの方は、すごくうまいです、人の顔色見るのが。「この人ならいけそう」っていうのがもう経験上分かってて、そういう人に頼むんです。お店なんかでも、「段差上げてください」という時は、お店の店員さんでも「この人だ」というのがあるっていう、そこのテクニックは皆さん非常に持たれている。

（終了後に要約筆記の会員さんから以下の提案がありました。

G さんは発声するので「聞こえない」ということが相手にわからないからではないでしょうか？「私はしゃべれる人だけれど、聞こえない人で、筆談を」と言ってみたらどうでしょう。）

F：そうですね。確かに人の顔を見て判断というのは、ろう者も同じだと思います。優しそうな顔ですとか、ちょっと、全然手伝ってくれなさそうな雰囲気の人とかもいると思うんです。やはり顔で判断するというのは、今までやっていると思います。同じように。ちょっとバタバタ歩いている人には頼みにくいと思うんですが。遠慮してしまいますが、車いすの方とろう者も同じように判断していると思います。

F：すみません。もう１つだけ。

北村：どうぞ。

F：例えば目を合わせて、目を合わせた時に目をそらす人というのは、あんまりお手伝いしてくれないんじゃないかな、と思います。目を合わせて、何かアイコンタクトというか、目を合わせた感じで決めるというのでできると思います。

北村：そうですね、ありがとうございます。時間がもう無くなってしまったので、またこういう機会を持ちたいと思います。

マンション内で情報がない

質問票の記載に１つ宮澤先生にお返事してもらおうと思っていた書き込みがありました。最後の 18 番で、「不安なことがありますか」という質問について書いていただいた方で、宮澤先生からアドバイスいただきたいと思います。

宮澤：「マンションに住んでいるので、いろいろな情報が入ってこなくてわからない」といご質問です。聞こえない方、ご夫妻で暮らしているんですね。聞こえるご家族が一緒ではないので、「不安だ」というのがありましたが、やっぱりマンションってすごく閉ざされているので、自宅の中にいると周りの様子が分からない。逆に避難所に行ってしまった方が、具体的なアナウンスは入ってこないにしても、回りの様

子が見えるので、目からの情報がまず入ってくるというのはあります。

戸建てのおうちで、ちょっと窓を開ければ周りの様子が見えるというんだったらいいんですが、避難所に行くというだけでも、結構目からの情報が入ってくるものですね。人の中に入っていくという方がいい時もあります。

通訳者の身分保障

それからもう１つあって、すみません。通訳者の身分保障を進めてほしいというご意見が書かれていたんですが、これはぜひ、所沢市の登録の通訳さんと登録の要約筆記の方々と社協さんとの間で、災害時に派遣という形にするのかどうかというのは、至急に話し合っておいたらいいのではないかと思います。どういう形になったら派遣をするとか、どういうところまでは自主的にぜひお願いしたいとか、そういったことはあらかたガイドラインを決めておくべきだと思います。それはぜひ早急にお願いします。

北村：何も無いとボランティアということになってしまうんでしょうか。

宮澤：そう。何も無ければボランティアで、自発的に動いちゃったらそれはボランティアになるし、そこで起こった、けがした何したというのは全部自分の責任になるので、それを全て支援者だけに押し付けてしまっていいのかどうかっていうのもありますよね。ぜひご検討いただきたいと思います。

北村：ありがとうございました。まだまだ話したいことがたくさんあると思うんですが、また次の機会を持ちたいと思います。今日は初めて、私たちも聴覚障害の方だけに的を絞って、どういうふうに具体的なことができるかを考え始めたところですので、これから徐々に、今日出てきた課題がどんなふうに解決されていくのか。Ｇさんが「支援を受けられるようになった」という報告がいつ聞けるのか、楽しみにしたいと思います。うまくいった経験があったらすぐに連絡してください。

今日の報告は２、３カ月のうちに文章にまとめて、皆さんに郵送したいと思います。メールがいい方は、またメールアドレスなど教えてください。

今日はどうもありがとうございました。情報保障の方たち、手話通訳の方、要約筆記体験の方、どうもありがとうございました。また次回に生かしたいと思いますので、ご要望などもお寄せください。どうもありがとうございました。では、最後に宮澤先生に拍手をお送りして終わりたいと思います。

宮澤：皆さんどうもありがとうございました。（拍手）

北村：他に、直接宮澤先生に手話でお話しをしたい方は、時間の余裕がありますので、お残りいただいて、お話しください。

（資料１１－３）　　防災勉強会実施書（通算　第８回）

平成25年度特別研究「障害者の防災対策とまちづくりの総合的推進に関する研究」において、以下のとおり勉強会を実施いたしました。

研究代表者：　北村弥生（国立障害者リハビリテーションセンター）

年月日：平成26年3月23日（日）　10:00-12:00

場所：並木公民館

参加内訳：
所沢市A町B丁目在住の障害当事者　９名
（車いす利用者４名、杖使用者１名、介助者１名、全盲者１名、弱視者２名）
国立障害者リハビリテーションセンター研究所　２名
　北村弥生　　04-2995-3100 内線2530
　高橋　競　　04-2995-3100 内線2581
ボランティア組織　C代表　１名

目的：
・災害時への準備（自助、共助）を、地域で、障害当事者の視点から行う。
・「障害者の防災と街づくりのあり方に関する研究」としては、当事者から発信する防災活動を参与観察して全国に報告したい。そのための場の設定や応援をする。

勉強会内容：
１）自己紹介：
・当事者（介助者）全員は、市営住宅または県営住宅に住む高齢者であり、互いに面識はあった。

２）災害に関して心配していること、勉強会で解決を目指したいこと：
・要援護者登録している人は２名
・防災訓練参加者は１名
・一次避難所の小学校体育館を見たことのある人は１名
＊10階に住む全盲の男性
＊５階に住む車いすの女性

＜自治会について＞
・市営住宅と県営住宅は自治会加入が義務付けられていた。参加者は全員、自治会に加入していたが、県営住宅（718世帯）では外国人居住者が約２割、若年者は10年を上限に退去する規則があることから支援者候補が少なかった。自転車を玄関前に置かないことなどのルールの徹底もされていなかった。
・市営住宅自治会の毎月１回の清掃に、できることは少ないが、参加する者があった。
・県営住宅では自治組織の意識は低く、清掃もないため、近隣の中学校、秩父学園、所沢学園が清掃に来てくれる。
・階段を共有する住民同士の懇親会を昨年、居住者のトラブルをきっかけに行った例があった。近隣とのつきあいの必要性は認知しているものの、実現には困難を感じる者が多かった。

＜避難について＞
・小学校体育館のスロープ設置とトイレのバリアフリー化を求める意見があった。一方、狭山